

議会だより

かみやま

第 9 号

2011.5.15

3月定例会



当日、
宮城愛さんの
ライブ



当日の
出店

神山に移住した、女性だけのグループ企画の「暮らしとアート蚤の市、か・み・や・まるけっと」

発行／神山町議会 [〒771-3395 徳島県名西郡神山町神領字本野間100 TEL. 088・676・1511 (IP2002) FAX. 088・676・1100]

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。

この度の東日本大震災により、お亡くなりになった方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

神山町議会 3月定例会

3月議会は、平成23年3月7日から16日までの10日間の会期で開催しました。

前年度より1.9%増の57億1,066万円となった平成23年度予算を中心に、条例の改正のほか22年度補正予算、定住自立圏形成協定締結、名西郡青少年センター協議会の設立協議など15件を審議し、すべて可決しました。一般質問では3議員が登壇し（5ページから掲載）それぞれ町の考えを質問しました。

平成23年度予算 57億1,066万円を可決

	(前年比1.9%増)
一般会計	36億3,200万円 (2.7%増)
国民健康保険特別会計	10億 820万円 (0.8%増)

簡易水道事業特別会計	1億1,790万円 (2.5%増)
介護保険特別会計	8億4,362万円 (2.0%増)
後期高齢者医療特別会計	1億 894万円 (10.3%減)

主な内容

・町道改良舗装	5,600万円 (産業建設課)
・林道及び作業道開設事業	6,260万円 (産業建設課)
・上分公民館エレベーター設置工事	3,900万円 (教育委員会)
・公共施設耐震診断	4,640万円 (総務課、健康福祉課、教育委員会)

・防災無線基本設計	300万円 (総務課)
・地籍調査	2,640万円 (税務保険課)
・地域元気力創出事業助成金	500万円 (総務課)
・橋りょう点検費	1,000万円 (産業建設課)
・高齢者等タクシー利用助成事業	1,296万円 (健康福祉課)
・こども手当費	6,483万円 (健康福祉課)
・山の境界確認先行調査事業	1,470万円 (産業建設課)

3月 補正予算

一般会計補正予算並びに三特別会計補正予算が提案され、総額で3億2,319万円が追加されました。また、東日本大震災災害見舞金として500万円を追加補正し、友好提携を結んでいる岩手県宮古市へ送金しました。

主な内容

一般会計 (第7号)	45億1,482万円 (3億1,142万円増)
一般会計 (第8号)	45億1,982万円 (500万円増)
国民健康保険特別会計 (第5号)	10億4,713万円 (258万円増)
介護保険特別会計 (第3号)	8億6,931万円 (519万円増)

所信表明

町長から所信表明があった。その概要は、次のとおりとなっている。

国の一般会計予算の規模は、92兆4116億円で前年度に比べて1124億円、0・1%の増となっている。ただ、本年度の国の予算は、ねじれ国会で子ども手当法案や特例公債法案など予算関連法案の成立の目途が立っていないため、今後の国の動きに十分注視してまいりたい。

平成23年度の神山町一般会計当初予算は、引き続き厳しい財政見込みが予測されているが、歳入歳出総額36億3200万円を計上している。前年度に比べ、9500万円、2・7%の増となっている。

国民健康保険、簡易水道事業など

4つの特別会計は、合計で20億7866万7千円となり、前年度に比べ0・6%増となっている。

一般会計予算の概要は、歳入で町税収入は、厳しい経済情勢などにより前年度に比べ3・9%減の5億1461万8千円を見込んでいる。

依存財源の地方交付税が前年度に比べ1%増の16億5627万3千円。臨時財政対策債が28%減の1億8千円を見込んでいる。なお、基金会計からの繰入額は3億5173万3千円を計上し、その内、財政調整基金から3億2400万円繰り入れている。前年度より7579万7千円の増額となっている。

一方、歳出では、義務的経費が前年度に比べ6・1%の減となっている。人件費は職員の減により2・

防災無線拡声装置

0%の減、公債費は一般廃棄物処理事業債の終了により18・4%の減となっているが、扶助費が子ども手当等の増額などにより7・9%ほどの増となっている。投資的経費は、前年度より6・9%の減となっている。前年度の

神山消防署建設工事費の計上分を差し引きすると、前年度より若干の増となっている。

特別会計への操出金の総額は、3億2788万7千円で前年度より5389万7千円の増額となっている。増額の主な理由は、国民健康保険特別会計で、保険給付費の増加により繰入金が増額となっている。

公債費の残高は、一般会計では当初予算の当該年度末現在高見込額は30億9929万7千円。簡易水道特別会計は、5億1533万7千円で、合計36億1463万4千円となり、22年度末現在高見込額に比べまして、1億2120万1千円の増となっている。今後、公共施設の耐震化対策、防災行政無線の更新等を進める必要があるため、公債費は徐々に増加する見込みである。起債借入は、交付税算入措置などの有利な方法を選択しながら、慎重に対応をしてまいりたいと考えている。

平成23年度の職員数は、平成22年度当初は117名でしたが、22年度末で行政職が6名、現業職が5名退職し、行政職90名、うち新規採用職員が4名、また現業職20名の合わせて110名の体制となる。

平成22年度分のふるさと納税は、

18名の方から1226万9千円のご寄付をいただいた。この額は、昨年末現在で、県下で2番目に多い金額。この寄付のうち、226万9千円は消防団員のヘルメットの更新。また小学校の机と椅子セットの更新。また、小規模共同作業所うめこの事業補助等に使用させていただくこととしている。

新年度の主な事業等については、定住自立圏形成協定については、徳島東部地域市町村長懇話会で、連携事項について協議を進めてきた。この度、具体的な連携事項を取りまとめたので、徳島市との間において定住自立圏形成協定を提携する。

防災行政無線は、昭和61年度と平成7年度に整備をし、運用をしているが、古いものは24年を経過し、老朽化が進み、修繕費等々も増加し、安定的な運用ができなくなってきた。本年度基本設計に取りかかっているため、本年度基本設計に取りかき、早い時期に更新したいと考えている。

公共施設の耐震化は、学校以外の建物についても耐震化を計画的に進めることとし、本年度から役場本庁舎ほか12施設の耐震診断に着手し、町施設の安全性を確保してまいりたいと考えている。

神山町元気力創出助成事業は、まちづくりの推進を支援するため、まほろばの里づくり助成事業に代わり、本年度から神山町元気力創出助成事業を実施する。

神山町高齢者等タクシー運賃助成事業は、買い物あるいは通院等、高齢者の皆様方の生活を支援することを目的として、本年の2月から「のらんでサービス」と名付け試行をしてきたタクシー利用助成事業を本格実施する。2月からの申し込み状況も良好で、今後多くの高齢者あるいは障害者等の方々に喜んでご利用いただけるものと考えている。

保育所の土曜保育は、力を注いで取り組んでいる子育て支援の一環で、広野、下分両保育所で、本年4月から完全土曜保育の実施を計画している。

国土調査、地籍調査事業は、平成4年度から平成15年度までの12年間実施し、その後、やむなく休止をしていたが、再開の準備が整ったので、新年度から税務保険課国土調査係に職員を2名配置し、実施する計画としている。調査区域は、神領西野間地区から引き続き実施する。

橋りよりの長寿命化修繕計画は、本町が管理する15メートル以上の道

路橋りよりは47橋ある。平成19年度に橋の健全度を把握する橋りよ点検を実施をしている。そして、今後の橋りよりの維持管理における方針や修繕等の取り組みについて定める橋りよ長寿命化修繕計画を本年度策定する予定となっている。また、15メートル未満の道路橋りよ200橋についても橋りよ点検を行う予定にしている。

町道林道の改良事業等は、国庫補助等を活用できる有利な事業、また住民の方々が必要とする事業を中心に基盤整備を実施する計画としている。町道については、谷線の改良工事、また大地谷線の舗装工事などを実施する予定にしている。林道については、林道五味線の改良工事を引き続き進める予定にしている。また、橋りよについては、栗生野橋の修繕工事を進めたいと思っている。作業道については、中核作業道、はげ谷線の工事を計画している。などの報告があった。

諸報告

○平成23年1、2月分の例月出納検査、出先等関係機関の監査結果報告

監査委員から一般会計及び特別会計に属する出納状況を出納機関の諸帳簿、指定金融機関提出の収支日計表、証憑書類と照合した結果、過誤のないことを確認したこと報告があった。

また、各出先等関係機関の施設、備品管理、利用状況等についての監査については、不明瞭備品が一部あるため、すべての備品の再点検を要すると報告があった。

○教育委員会の権限に属する事務及びその他教育長の権限に属する事務の管理及び執行状況等の点検、評価及びその結果について報告があった。

○議員派遣報告
徳島県市町村トップセミナーほか1件について報告があった。

条例制定・改廃等

○職員の分限に関する条例の一部改正
病気休暇の取得後、休職となったものが、復職後6カ月を超えない範囲内で再び同様の疾病により休むこととなった場合、復職前の休職期間を引き継いだこととなるよう改正を行うものです。なお、この場合にお

いて、通算される期間は3年を超えることができません。
(賛成多数可決)

○神山町母子福祉資金貸付条例の廃止
近年貸付希望者が少なく利用者が

ない状態で、神山町母子福祉会と協議の結果、徳島県母子寡婦資金貸付制度や県社会福祉協議会の生活福祉資金貸付事業、また町社会福祉協議会の善意銀行緊急小口資金貸付事業といった他の制度を利用できることから、この条例を廃止するものである。
(賛成多数可決)

○神山町農村公園の設置及び管理に関する条例の廃止
川又農村公園として、運営は設置

地区の集落に委託していたが、少子高齢化に伴い、利用する人もなく、遊具も老朽化し危険な状態にあることから、地元より条例の廃止と遊具の撤去要望があり地元と協議をした結果、条例を廃止するものである。
(賛成多数可決)

議員発議案

○議員派遣
勝名地区町村議会議長会正・副議長視察研修について、議員を派遣す

ることに決定した。

○委員会の閉会中の継続調査

各常任委員会、特別委員会における案件について、閉会中も引き続き調査を行うと決定した。

その他

○定住自立圏形成協定の締結

人口定住のために必要な生活機能の確保に向け、徳島市と神山町が1対1で連携する取り組みについて、役割分担していくことを明示したものの。

本町が連携する取り組みは、産業振興、道路網等の交通インフラの整備、地域内外の住民との交流・移住促進など5分野の11施策。

中心市宣言を行った徳島市とそれに賛同した神山町との間において、相互に役割を分担し、連携を図りながら圏域全体の活力を高め、持続可能な社会基盤を築き、安心して暮らし続けることができる定住自立圏を形成することを目的としている。(賛成多数可決)

○名西郡青少年育成センター協議会の設置に関する協議

現在、石井町青少年補導センターが設置されているが、平成22年度をも

つて県の補助金が廃止される。

そのため、新たに名西郡青少年育成センターとして発足するのに伴うもの。(賛成多数可決)

○平成22年度森林整備加速化・林業飛躍事業(木造公共施設整備)

名西消防組合神山消防署新築工事変更請負契約の締結

繰越明許費として承認したこと
で、工期を平成23年3月31日までに改めるもの。なお、この工事の工期は、建築面積、建築仕様等から約10か月を要することから最終的には、



神山町役場庁舎横で工事中の神山消防署

平成23年10月31日までの工期になる。(賛成多数可決)

○平成22年度広野小学校耐震改修工事変更請負契約の締結

繰越明許費として承認したこと
で、工期を平成23年3月31日までに改めるもの。なお、完了工期は県と協議中とのこと。

(賛成多数可決)

○平成22年度神山中学校耐震改修工事変更請負契約の締結

繰越明許費として承認したこと
で、工期を平成23年3月31日までに改めるもの。なお、完了工期は県と協議中とのこと。

(賛成多数可決)



3月定例会

一般質問



西崎 哲夫 議員

問

①本年度末11名の退職者があるようだがこの補充採用について、単なる経費削減や数合せでなく本町の諸般を十分検討考慮した上で、高度な行政の基本的な考え方の構築や判断が求められるのではないか。

(一)町長2期目4年間の職員定数退職者数、又補充採用の実態について。

(二)一般行政職、現業職別に

(三)補充採用人数を算出した根拠と、採用の基本的な考え方について。

(四)本年度末退職者の補充採用は何名か、その決定の根拠は。

(五)職員の採用から60歳退職までの給与及び、その職員に係る諸々の経費はどの位か。(一般行政職の平均的な例)

町長

答 当然職員の削減というのは人口減と共に削減していかなければならない。一方新たな行政課題への対応について、住民サービスの低下をきたさないような職員数の確保は当然必要になると思う。これ迄も10人辞めたら10人採用するという補充はしてこなかった。人口減少の本町で適正規模の職員数の確保に努めてきた。本町の目指す平成26年度の職員数は集中改革プラン、行政改革大綱にも登載してある100名を目標としている。その根拠は法的に謳われてはいない。本年度末11名の退職者があり補充採用は4名である。(行政一般職3名保育士が1名である。)この採用への根拠は定かなものはない。しかし類似団体との比較や財政状況、特に義務的経費の中で、人件費が占める割合といったものの他市町村との比較ということも勘案してやっている。特に職務量が1人当り適正なものかの勘案をしている。

大野総務課長

答 質問の1番から4番目の数字的なものに答弁する。
別表に集約する。

平成15年から8年間の退職者採用者の差引きは39名の減員となっている。

◎ 職員の生涯給与は高卒ですぐに一般行政職に採用され、60歳定年まで約2億円になる。又、年金や健康保険、退職金等の町の負担分が別途3千万から4千万円必要であり、1人当りの人件費は2億3千万から4千万円程度となる。

再質問
臨時職員での対応について。職員

採用を出来るだけ少なくして、臨時職員で対応すれば経費削減になるのではと、住民も思われることです。臨時職員の課題と、対応出来る範囲、又限界の考え方について。

大野総務課長

答 臨時職員は国、県への申請と、重要な自分で責任を持って行える部分、主にそういったことは出来ない。補助的な事務、現業の仕事に携わってもらう。又、期間が限定さ

れている。ずっと長い間続くような事業でない場合に臨時的任用をしている、その場合でも正規職員が指導する体制をとっている。

再々質問

いくら役場の仕事の一部民間委託されたり、IT化により省力化されても行政は人がする。それが原点だと思ふ。今一度反芻して、採用に対応する必要があるのでないか。又補充採用についても何故この人数を採用するのか、どんな背景があるのか等も広報等を通して情報を公開すべきでないか。



高橋 和男 議員

問 ① 神山消防署の新築移転について

神山消防署が耐震工事の為、町役場南側に新築移転することになりまして、私が昨年の9月に全員協議会の際に建設工事はその大手建設会社が元請し、一部工事を地元神山町内の業者に委託することが出来る様に町長にお伺いしたところ、町長

職員の退職者、新規採用状況 (別表)

	退職者			新規採用者		
	一般	現業	計	一般職	その他の職種	計
平成16年度	5	2	7			0
平成17年度	9	4	13		1 (保健師)	1
平成18年度	7		7	4		4
平成19年度	1	1	2	1		1
平成20年度	1	3	4			0
平成21年度	4	3	7			0
平成22年度	6	5	11	2		2
平成23年度				3	1 (保育士)	4
	退職者計		51	新規採用者計		12

平成23年度は臨時職員として、学校用務員4名・作業員1名補充

の答えはノーという答えでした。何故、地元神山町の業者の方にしなかったのかを、お答えを願います。

それと、今、役場南側で神山消防署の新築工事をしていますが、以前美しくて立派な駐車場の屋根（カーポート）がありました。それはどうされたのか教えて下さい。

答

町長

ただ今の高橋議員の一般質問にお答えをいたします。ただ今、耐震化工事の中で神山消防署を新築を進めておるところでございます。その中で、工事について下請工事について神山の業者をどうして使わなかったのかということであり。これは、議場ではなかなかお答えしていいのかわからない分野です。

と申しますのは、限りなく公正な入札あるいは契約ということが求められておる昨今でございます。特に情報公開、あるいは透明性ですね。そんな中、我々発注者の立場と申しますのは、税金を使って公共工事を発注したところでございます。そういった手続きの上において、当然、根拠法というものはあるわけですね。建設業法あるいは財務規則等々によ

りまして、その法に則って進めてい

かなければならないということであり

この建設業法の18条につきまして、請負契約の原則というものがございます。発注者と受注者については、それぞれ対等な立場でなければならぬということが謳われております。これらの公正な合意によって、信義に従って誠実にこれを履行しなければならぬというふうにも謳われておりますし、また19条の4では、注文者についてはですね、契約の締結後、地位を不当に利用して、その注文した建設工事に使用するさまざまな分野の資材等々、機械器具もそうでありますけれども、こういったものを指定してはならないということが謳われております。受注者の利害ということも発注者が侵してはならないと、対等な関係にあるんだということですね。どうして、こういったことが謳われておるかということでありまして、私の考えるところ昨今の公共工事にまつわるさまざまな不祥事、談合、談合も官製談合というのがあります。そういったことを防ぐためのこのように18条、19条が謳われておるんだと、このように理解をいたしております。発注者が恣意的に業者をござ

こにということとは、非常に困難な分野があるということですね。心情は、よくわかります。気持ちとしては、神山の業者さん大勢仕事が無く困っておられる。当然、神山の業者に一部、下請ですから一部ということになります。仕事をしてもらった方がいいという気持ちはわかりますが、手続き上、やはり法的根拠を踏まえ、やるのが当然というふうに思います。

ですから、なかなかお答え申し上げにくい分野であるということですね、議員も一つご理解をいただきたいなあと思っております。

ただ、特に神山の材料の中で、木を使う。徳島県の認証を得た木を使うということについては、当然、県の森林関係の基金を使わせていただいて、補助をいただいておりますので、県の認証材、すなわちこれを認証を受けた業者が神山にどうも聞くところによると4つあるということでございますので、これは業者さんに伺いますと現在のところ神山の製材業者さん等々を含む4社と神山の木を使うべく交渉中であるということとでございます。

それからまた、生コンですね。これについても、聞くところによりま

すと、企業努力によりまして受注者と契約ができておるといこととでございますので、ご理解をよろしくお願ひしたいと思います。

答

大野総務課長

2点目の公用車の駐車場のカーポートの移設の件について、お答えをさせていただきます。高橋議員さんがおっしゃられる公用車の駐車場のカーポートの移設をしたら値が安いのではないかとのご意見はごもっともでございます。それで、役場の方も最初移設を検討いたしました。ですが、設計事務所と打合せをしました結果、前のカーポートは基礎が大きいために、今、公用車を止めてあります南側へ移設をした場合、民家がございます。そしたら、基礎が大きいので南側の方を掘削しますと民家に影響が出る恐れがあるということと移設を止めた経緯がございます。移設をしたら、安価にはなるんですけども、隣接地に影響が出ないようには今度は既製品の小さなカーポートにする予定でございます。

それと、前のカーポートは柱の間隔が4・8メートルでございます。ワンスパンを撤去すれば移転は可能

だったんですけれども、駐車台数が前は18台、それが12台に減るために公用車を置くことができなくなりましたので、移設をしなかった理由はその点もございます。以上、移設ができなかったのは隣接地への影響、それと駐車台数が確保できないということから移設を諦めた経緯がございます。



櫻本 雄一 議員

問

① 報道などで核家族等により独居老人が死後たいが経って、久しぶりに訪ねていった親族に発見されたという事件報道が度々聞かれる。病気で周囲に助けも呼べず亡くなられたとか、家の中で転倒して骨折をして助けを呼べず衰弱するというケースもあるようである。多くは、ひとり暮らしで周辺社会との接点もなく、誰からも看とられることもなく亡くなられたようである。特に、神山町は年々高齢化が進んでおり、独居老人、高齢者夫婦の？人暮らし、介護世帯等が増加してい

る。

神山町で、いつまでも安心して住み続けていくため、当人はもちろん、隣近所の人たちもいつ悲惨なことが起こるのか心配でならないというようなことを聞く。

そこで、行政として地域福祉の観点から、火災など防災の観点からも孤独死予防対策として緊急時に連絡できる、しっかりとした緊急予防システムを構築する必要性があるのではないか。

答

町長

神山町において、孤独死が残念ながら数年に一度は、亡くなった後に発見される例が現実にある。

独居老人の方々の安全安心の見守り、あるいは安否確認等々については、民生委員、地域の方々、老人クラブの方々、介護職員、地域包括支援センター、あるいは緊急時、災害時、台風が襲来といったときには、地域の消防団員の方々が、それぞれ安否確認等々やっていただいている。更に現在22年度から介護サポーターの見守りということをやらせていただいている。

そして、今後それぞれの団体が一堂に会して情報を共有するというこ

とが非常に大事と、考えているので、それぞれの各団体組織による高齢者の安全安心見守り隊というように、強力なネットワークを構築したいと思っている。

また、緊急時の通報システムが、どういったものが一番有効か、最良かということになると、限りなく近くにどういった支援をしてくださる人がいるかいないかということが、非常に重要な決め手になる。

今、考えているのは、先進事例で、緊急時に自分がペンダントとか何かを所持して、それを押すとそれぞれのお宅に、警報機のようなものが設置をされ、加えて赤色灯、あるいは黄色のランプを点灯すると、回転灯でもするというようなシステムをすでに構築している自治体がある。

即、お隣の民家とか近隣のお宅まで、駆けつけていただくというような、極めて単純なシステムであるが、そういったシステムが神山のように点在する集落においては有効なものではないかと考えており、安全安心のネットワーク構築の一つの手法として、こういったものも導入へ向けて検討をしてみたいと考えている。

議会を傍聴しませんか！

皆さんが選んだ代表が議場でどんな発言をしているのか自分の目と耳でお確かめ下さい。どうぞお気軽にお越し下さい。定例会は年4回（3月・6月・9月・12月）に開かれます。日程・手続き等は議会事務局へお問い合わせ下さい。

神山町議会事務局
TEL

676-11511

「TP2002」

次の定例会は

6月中旬です。

議会だよりの投稿を募集しています。

身近な「出来事」や「情報」など、お気軽にお寄せ下さい。投稿は自由です。提出された投稿は、本委員会で協議検討し、承認を得たものとなります。議会だより発刊月は2月・5月・8月・11月の年4回を予定しています。

提出・問い合わせ先

神山町役場内 議会事務局
TEL 676-11511

「TP2002」

第1回臨時議会

平成23年1月24日に開催されました。

提出議案は、一般会計補正予算並びに二特別会計補正予算、広野小学校、神山中学校耐震改修請負工事の締結議案が提案され、補正予算は、総額で9579万円が追加されました。いずれの予算についても、国の経済対策補正予算に伴う追加補正となり、いずれも原案どおり可決しました。

一般会計(第6号) 42億 340万円
(7507万円増)
国民健康保険特別会計(第4号) 10億4455万円
(72万円増)
簡易水道事業特別会計(第4号) 1億4247万円
(2000万円増)

その他

○平成22年度広野小学校耐震改修
工事請負契約の締結

契約金額 1億1445万円
契約の相手方
株式会社姫野組

代表取締役 日野利治
(賛成多数可決)



耐震改修工事中の神山中学校

○平成22年度神山中学校耐震改修
工事請負契約の締結

契約金額 8733万9千円
契約の相手方
株式会社北島コーポレーション

代表取締役 北島大介
(賛成多数可決)



耐震改修工事中の広野小学校

名西消防組合 平成23年 第1回定例組合 議会

第1回定例組合議会は、平成23年3月3日に神山町議場で開催しました。

本定例会では、平成23年度一般会計当初予算など2議案を審議しすべて原案どおり可決しました。

また、議長細井成富氏、副議長長井上裕久氏の辞任に伴い新たに選任を行い、議長に相原浩志氏、副議長に梶野利男氏が選任されました。

可決しました議案は、次のとおりです。

名西消防組合火災予防条例の一部改正、平成23年度名西消防組合一般会計当初予算 4億5162万円でありました。

シリーズ[第1回～第7回] 総括

本紙に掲載した郷土芸能は

- 第1回 左右内獅子舞
 - 第2回 人形浄瑠璃 寄井座
 - 第3回 高浜獅子舞
 - 第4回 阿川の傘踊り
 - 第5回 阿川の獅子舞
 - 第6回 神山踊(上山踊)
 - 第7回 上分北谷七福踊り
- 以上、7回を重ねた。

何所の地域にも共通する最大の課題は急速に進行する過疎と少子高齢化による後継者不足である。人形浄瑠璃寄井座は全町から人材確保が対象となっているがその他の郷土芸能は限定された地域が対象となっている。

寄井座、阿川の傘踊り、神山踊りの他は地域で盛んであったが一度途絶えたものを復活させて、今に至る経緯がある。共通しているのは伝承していくのに不可欠である有能な指導者、世話人、先達に恵まれていることである。

又、多少の差異はあるが観光面でも、交流人口の拡大や四季の里、道の駅への集客増等々にも貢献している。郷土芸能の最も大きな意義は、高齢化が進む地域にあって、昔から

地域住民共助のもと引継がれた郷土芸能に誇りを持ち、地域の存在を意識出来る絆になっていることである。後継者対策も各々工夫を凝らした取り組みがなされている。

寄井座は本紙にも取り上げたが、神領小学校、学童保育と連携し小学生への伝承指導等で具体的な取り組みがなされております。

左右内獅子舞や阿川獅子舞の地域では、近年関係者の近隣他町への転出も起きており人員の減少が課題ともなっているが、道路事情の改善により、転出者の協力を得る動きも出ている様である。

神山踊りや上分北谷七福踊りでは踊りそのものは単調で伝承が容易であるが、音頭出しが途絶えようとしている実情がある。しかし音頭出しは技量を要するだけに大きな課題となっている。

神山踊りは焼山寺の夏のおこもり行事の催として伝承されてきた経緯もあり、伝承の機会が失れつつあることも気がかりである。町内各地区の芸能大会等は歌舞音曲は玄人はだして、どちらかといえば土臭い郷土芸能が敬遠される傾向にあるのかも

知れないが、中山間に位置する我郷土に伝承されてきた芸能は、時の流れに埋没させてよいものではない様に思われる。単なる懐古的価値観だけでなく、今に生きる我々が、別の価値観で次代へと引継がなければならぬ大切なものではないだろうか。4月17日(日)は上分地区芸能大会で上分地区住民による上分北谷七福踊りが久し振りに上演され、竹内春雄氏の音頭が朗朗と会場に響き渡った。



上分芸能大会で上演された、上分北谷七福神踊り

岳人の森、40年

岳人の森主人

山 田 勲

「平凡でも良いから幸せな人生を過ごしたい」よく耳にする言葉です。20才の時、神山町最上流部の一集落で、山村後継者となった私にとっては、この考え方は成立しない、あり得ない事だと思っていました。山村の日々は、人と出会う機会も乏しく若者にとっては、ときめきのないものです。そして将来は確実に過疎が進行し、現状は、悪化すると思っていました。「何か地域が良くなる事をやりたい」という思いが強くなり、しばしば、「神山を発展させたい」と口に出す事もあり、友人からは「やってから言え」と言われました。そんな考えを理解する人など皆無の時でした。

神山町を多くの人を訪れる活気のある町にしたいと思い、40年前、23才で岳人の森に着手しました。その時から私は町内はもとより町外県外の、いろいろな会合等の場で、自らの考えを述べていました。

観光客が多く訪れるという事は、働き場が生まれ、物品販売等、直接の収益以外に、交流によって住民の知識や文化の向上、心の活力が生れる訳です。それは有形、無形の大きな効果を住民に与え、新たな取組への意欲を呼び起こすのです。

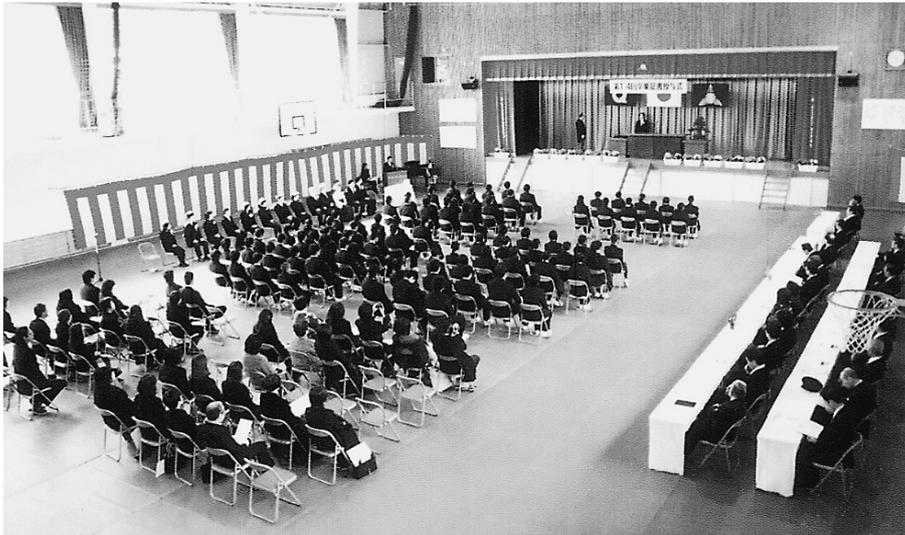
シャクナゲの里として多くの人に支えられ歩んで来た岳人の森は、現在は四国山岳植物園として、国や県に指定された絶滅危惧種を、次の世に残してゆくという社会的使命をもって、県内外の人達を迎えています。

2年前、料理担当として次男もスタッフに加わりました。近年は各方面から取材が多くなり、4月には遠く台湾のテレビ局と旅行会社が訪れ、そちらで、放映される事になりました。若かりし頃の志を今後も変える事なく、故郷神山町の発展に微力を尽くしたいと思っています。



山田勲さん幸代さんご夫妻

町内、保、小、中、高、卒業、卒園式実施される。



城西高校神山分校の卒業式

3月上旬から中旬にかけて、城西高校神山分校、神山、神山東中学校、神領、広野保育所の卒業、卒園式が実施された。招待を受けた校区関係各議員も出席した。春の恒例ではあるが、各々の当事者にとっては人生の節目の大切な式典だけに、毎年のことながら感動や感傷を覚える一時である。卒業生は夢や一抹の不安を覗かせながら学舎を巣立っていった。町内唯一の高校城西高等学校神山分校でも、まだ春浅い3月2日、30名の卒業生が学舎を後にした。小規模校ではあるが、特徴ある教育内容や活動で知られる地元高校であり、地元卒業生も多数輩出しており、私達には身近な存在である。神領ゆりのパイオ技術による、原生地への回帰活動や稀少植物の回復増植活動等々も特徴ある教育内容の一環である。式典で卒業生代表で答辞を述べられた宮城愛さんは、その中で、平和の中で、高校卒業の喜びに浸れる自分に比べて、今世界の何所かで紛争や貧困、飢餓に苦しむ同じ世代がいることにも触れられました。多感にして、ともすれば感傷に流されやすい世代の女性が、聞かせてくれたやさしい人権感覚に感動させられました。同校の確かな人権教育や、宮城愛さんの家庭や日常生活の中で培われた、素晴らしい人権感覚に敬服させられた、城西高校神山分校の卒業証書授与式でした。

議員自治功労表彰

平成23年2月25日、徳島市のホテル千秋閣で徳島県町村議会議長会の自治功労者・町村議会表彰式がありました。式において町村議会議員として長きにわたり地方自治の振興発展に寄与したとして、神山町議会からは次の議員が表彰されました。

全国町村議会議長会表彰(伝達)

- (27年以上在職功労者)
森 彦富 議員
- (15年以上在職功労者)
森 克一 議員

徳島県町村議会議長会表彰

- (11年以上在職功労者)
木元史幸 議員
坂口一之 議員
森本吉治 議員
山本充良 議員

表紙説明

寄井座で「か・み・や・まるけっと」

桜の花には少し早いかなと思われる3月27日、神領字北の寄井座で「か・み・や・まるけっと」が開催された。取材によると、運営スタッフはそのほとんどが、神山に移住した女性ばかりのグループ「やまのかみ〜S'」である。今回で4回目、一周年を迎えたこの催は試行錯誤の連続ながら、女性ならではのアイデアを出し合いながら、暮らしの中に息づくアート、そしてアートによって豊かさを増す日常を模索しています。

夢をかなえるために移り住んだ人、温かく迎え入れる町の人、そんな環境に惹かれて訪れる人、不思議な引力で神山に集った人々が、その想いを形にして伝える場にしたいとのこと。同時に神山ならではの暮らしの知恵や郷土料理、今は使わなくなった古い物等にも光を当て、価値を見直していく。そうした新旧二つの価値の間で、かみやまブランドが生まれるかもしれない。また商品ディスプレイにもこだわり、アーティストの作品展示と関連イベントを行うなど、アートの町神山のカラーを出したいとのこと。移住者の応援をしながら町内外の交流の場として、新たな神山文化を発信していけたらとのこと。こんな趣旨でスタートしたこの催も、町内外から農産物、食品、手作り雑貨、カフェなど約30店舗が参加、移住、あるいは長期滞在のアーティストが作品を発表、販売もした。私達が気付き難い移住者の視点では、かつて娯楽の殿堂であった旧劇場寄井座は、こんなふうに入が集う場としてはうってつけです。この場所の持つ空気がたくさんの来場者を呼び寄せていると言っても過言ではない。移住者の発想や価値観でまだまだ成長を続ける「暮らしとアート蚤の市、か・み・や・まるけっと」の今後に注目していきたいと思います。



昔、懐かしい寄井座入口の風情

表紙写真 松浦一郎氏 神領字北

移住者紹介コーナー

神山町下分字西稲原

瀧本 昌平さん 絵美さん ご夫妻



藍栽培の畑を背景に瀧本さんご夫妻

夫の瀧本昌平さん28歳は国府町出身で、妻絵美さんとは京都で知り合い、本年2月に結婚したばかりの初々しいお二人です。

昌平さんは京都の染色工房で3年間修業した染めもの職人で、現在下分字西稲原の町営住宅で新婚生活を始めています。染色素材は自然素材にこだわり、現在手始めに下分字栗生野で約9a程の藍染原料の藍作を始めておられます。現在は藍と柿渋の染が主流ですが、神山の山野草木を素材にした染に大きな夢を語ってくれました。

先般寄井座での「か・み・や・まるけっと」でも藍染、柿渋染の作品が出品販売されていましたが、単なる趣味としてでなく修業を原点とした染めもの職人の作品は、味わい深い趣きはさすがの感がありました。神山町移住交流センターを通しての係りの中で、今全国のアーティストが注目の神山への移住を決めたとのことで、本格的な染めもの職人、瀧本さんご夫妻の活動に注目し応援していきたいものです。

特に藍栽培からすくもまで、本格的な染色素材の生産は本町では近年初めてのことで、休耕地の多い本町での栽培拡大が注目されます。全国的にも藍は不足気味らしく、ご夫妻の取り組みが芸術の町神山で、一石を投じた波紋となることに注目し期待したい。

ご夫妻は住居は神山で確保出来たが、染色作業は国府町の実家でしており、神山での作業場を探しています。

春真只中、4月13日現在、栗生野の藍畑では3月末日に播種した藍が芽切りをはじめています。春のやわらかい陽差しを受けて、手入れするご夫妻には大きな夢がいっぱいです。

編集後記

未曾有の被害をもたらした東日本大震災、原発事故、想定外の危機的状況が発生しました。

南海地震が30年以内に60%の可能性で起こるといわれていますが、いつか我が身と、町でも地域でも、そして家庭でも防災について、今一度真剣に考え取り組むことが大切と痛感しております。

今回の議会だよりは、3月議会を中心とした内容ですが統一地方選挙のからみか一般質問も少なく予算も骨格的な予算となりました。

議会だよりの発行が3年目を迎える第9号となり、投稿していただいた方々に対し感謝申し上げますと共に、本議会だよりに多くのご意見をお寄せ下さいますようお願いしております。

(榎本 雄一)